

啓明會、日本交通労働組合、工友會、正進會、信友會東京鐵工組合、大進會、友愛會(有志應援の下に行はれたる示威運動が工場門前に於て警官隊と衝突し、正進會員古川桂、罷業職工樋口吉次郎、宮田春吉、金澤三十松等七名が向島太平兩署に檢束されたる事實あり。右記職首職工島貫でんは工場より除名を宣せられ同時に職工係は同女を上野驛に送り郷里までの切符を買ひ與へたるを罷業團中の或者之を聞知して車中より同女を連れ歸れるものなるが、同女は決して女工組合員の有力者にあらず、従つて此罷業に關聯して職首せられたる理由を知るに苦しむとせられたり。

十八日に到り寄宿女工と罷業本部との秘密通信開始せられ、寄宿女工に對する警戒の嚴重なるのみならず、土工が暴力的監視をなし、工女藤崎ツタエ(常任幹事)が女工との交通を断たれ食堂に赴くとすら禁せられつゝあること等の通信あり。是等は女工監禁の名の下に新聞に掲載せられたるため、工場當事者は狼狽の色あり、其の或ものは誇張に過ぎ或るものは事實無根なりと辯明せり。

尙ほ此前後に於て罷工者側の意外に強固なりしと、女工等より來る秘密通信中向島署長が若し一操業を開始せる時他人の働かんとするを妨ぐるものは刑に問はるべきものなり」と訓示せし一節ありしより、或は會社は所要の男工を小山、小名木川、程ヶ谷等の各工場より抜き來りて操業を開始し軟化女工をして作業せしむるの意なきにあらずやを疑はしめたり。されどこは皮相にして又女工心理を解せざる憾斷なりしなり。會社は罷業職工中の若干分子を除外したる大多數を罷業終熄後使用せざるべ

からざるは明白にして、他工場の職工を抜き來つて罷業者の感情を害する愚をなすの不利なるのみならず、今日の紡績界の状態にありては苦んで多産を焦慮するの要なかりしなり。更に有力なるは女工の心理にして彼等は隔離せられたる男女工に先んじて就業するの、他日の復讐に怖るゝを以て此の不安の一掃せざるの限り、主義に結束せる男工を動かすよりも容易ならざるなり。

罷工は斯くの如くして延引したるため、労働組合同盟會は蹶起し團結權確認のため徹底的援助の聲明をなすと共に左記の如き應援の順序を發表し、罷業者慰問、示威運動の参加、寄附募集等具體的應援策を定め、一は罷業者の意氣を引立て他方飽迄持久戦の覺悟あるを宣揚して會社を威嚇せんとしたるなり。

△二十一日深川區千田町千田俱樂部の東京瓦斯工組合主催大演說會△二十二日神田明治會館の労働同盟主催大演說會△廿三日大森町大森館の瓦斯工組合主催大演說會△二十四日神田青年會館の友愛會労働組合主催同盟發表演說會△二十五日場所未定全國労働同盟會大會

## 十三 罷業解決の曙光見ゆ

十九日局面は漸く展開し、法學博士添田壽一氏の如き蔭の重要人物として登場したり。博士は曾て友愛會の協議員たりしことあり、今回の罷業に就ても能ふべくんば友愛會の潮時を容易ならしめんとし、十九日銀行集會所に於て鈴木會長と會見し遂一事情を聴取したる上可及的盡力を約したり。此日